

2-5 資格の必要な職業

進路情報

1. 題材設定の理由

生徒たちは、仕事によっては資格が必要であることを漠然と知っている。しかし、具体的な職種や必要な資格、その資格を得る条件や苦勞といった点まで知っている者は少ない。そこで本時では、いくつかの職種について、資格とその取得のための条件や苦勞を明らかにし、さらに、自分のめざす職業に必要な資格や免許を調べさせる中で、資格の必要な職業の理解を深めさせ、自分の進路の見通しをより具体的にもたせたい。

職業をもちながら資格取得のために努力する姿は、続く「学ぶことの目的と意義（2－6）」での自己実現につながっていくと考える。また、ここでの学習は今後の上級学校の学習を意欲的に進める下地になるものであろう。

2. 指導のねらい

職業によって資格の必要なものがあることを具体的に分らせ、資格や免許の取得を含めた自らの進路計画の必要性を理解させることができる。

3. 指導計画（全1時間）

本時	・資格の必要な職業について理解を深め、資格調べの意欲を養う。
事後	・自分の就きたい職業について調べた必要な資格の内容やコース表を交流し、理解を広げる。

<説話例>

自分の職業の可能性を広げるために、努力・苦勞して資格を取得した先輩の事例や、将来希望する職業で必要な資格取得を考えて進路計画を立案した事例などを、学習のまとめの説話として話したい。

<建築士の例>

2級建築士になるには、学歴に応じた年数の実務経験を積んだことを受験資格とし、年1回学科試験（7月）と実技試験（9月）を分けて行う。延べ面積が500平方メートル以下の建築物の設計から工事の管理を一貫して行うことができる。それ以上の建築物は1級建築士の資格が必要。試験の合格率は2級建築士で22％程度、1級建築士の場合は8％程度である。

資格試験には、直接採用に関わる資格以外に個人の能力のレベルを判定する検定試験も存在する。また、国家試験やそれに準じた公的な検定制度以外に、民間で行う検定も数多い。そうした中には公的な資格に似せた営利を目的とした悪質なものもあるので、十分な注意を払うことが必要といえる。

はじめの活動	・資格の必要な職業があることを知り、資格について興味をもつことができる。	◎先輩の手紙を読み、感想を交流する。 ・公認会計士という資格をとるには、何度も試験に合格しないとれないんだ。 ・公認会計士になるには様々な道すじがあるんだ。 ・資格を取るのは大変だ。	・先輩の進路の道すじを確認させる。 ・職業には資格が必要なものがあつて理解させる。 ・資格を取得することの大変さを理解させる。	・P.32資料「公認会計士になるには」
	課題：職業によって資格の必要なものがあることを理解し、資格や免許の面から自分の進路計画を見直してみよう。			
中心的活动	・資格の必要な理由が理解できる。	◎なぜ職業によっては資格が必要なのかP.32①に記し、交流する。 ・専門的な知識がないと困る仕事だから。 ・よいものを作るには技術が必要だから。 ・命に関わる仕事だから。 ◎自分がめざしている職業についてどんな資格が必要か、または、あった方がよいと思われる資格を考え、交流する。 ・自分は……になりたいので、……という資格が必要だ。 ・自分は……になりたいが、どんな資格が必要か分からない。	・健康や安全を守る職業、専門的知識や技術を必要とする職業では、資格や免許を必要とすることを理解させる。このとき、事業所に一人以上もっていなければならない資格や、もっていることで能力を評価される資格などがあることに気づかせる。 ・資格が必要条件でない場合でも、あった方がよい資格や、職業に就く過程で有利な資格・自分を高めるために必要な資格について調べる。	・P.32① ・P.33資料「資格や免許が必要な職業例」 ・資料編P.74～77参照
	・自分が就きたい職業について資格調べを行うことができる。	◎自分が希望したり、興味をもっていたりする職業について、必要な資格や免許とそれを取得するためのコース表を作成する。 ・P.33②に記入する。 ・興味をもっている職業について、どんな資格や免許が必要なのか調べる。 ・資格の取得にはどんな道すじがあるのか調べ、記入する。	・自分がめざしている職業について、必要とする資格の内容を調べることが、これからの進路計画の立案に不可欠であることを理解させる。 ・現在の進路計画が、資格の取得が可能なのか調べさせる。	・資料編P.74～77参照 ・P.33② ・資格取得のガイドブックが準備できるとよい。
まとめの活動	・自分の進路計画を資格取得の面から見直すことができる。	◎現在、社会には数多くの資格試験や検定制度がある。どんな資格や免許があるのか調べ、P.33③に記入する。	・P.33③に記入した、自分が希望したり、興味をもった職業に就くために、資格や免許の取得が必要であることに、気づかせる。	

<説話例>

自分の職業の可能性を広げるために、努力・苦勞して資格を取得した先輩の事例や、将来希望する職業に必要な資格取得を考えて進路計画を立案した事例などを、学習のまとめの説話として話したい。

Sさんは花屋に勤めていましたが、自分の力が本当に通用するものなのか疑問をもっていました。そこで、フラワーデザイナーの検定試験を受けてみることにしたのです。3級からスタートした資格も、講習会を受けて2級の資格を取得しました。今ではパーティーなどのテーブル装飾など、胸を張って仕事を続けています。

<建築士の例>

2級建築士になるには、学歴に応じた年数の実務経験を積んだことを受験資格とし、年1回学科試験（7月）と実技試験（9月）を分けて行う。延べ面積が500平方メートル以下の建築物の設計から工事の管理を一貫して行うことができる。それ以上の建築物は1級建築士の資格が必要。試験の合格率は2級建築士で22％程度、1級建築士の場合は8％程度である。

資格試験には、直接採用に関わる資格以外に個人の能力のレベルを判定する検定試験も存在する。また、国家試験やそれに準じた公的な検定制度以外に、民間で行う検定も数多い。そうした中には公的な資格に似せた営利を目的とした悪質なものもあるので、十分な注意を払うことが必要といえる。